

令和6年8月号

一宮町の歴史特集

— 関和知没後100年 —

網田の歴史と関和知

【第5回 関和知の生涯①】

今回からは河崎吉紀の近著『関和知の出世』などを参考に、関和知の生涯を詳しく追っていきましょう。

△略歴▽（1870～190）

1870年 東浪見村網田にて関八歳の子として誕生。
幼名は勇吉。

網田小学校を卒業後、椎木小学校の高等科へ進学。

その後、郷校・芦村塾（1875年開設、現茂原市）で学ぶ。その傍らで小学校の代用教員をつとめ、教員検定試験に合格、訓導（教諭のこと）となる。

1886年 網田小学校の校長となる（10月～翌年）。

1889年 椎木で行われた公衆演説会にて「富の不平均及び社会主義」と題して初めての演説を行う。

1890年 ためと結婚。

幼名は「勇吉」だったそうですが、近くに同姓同名の人がいたため、のちに「和知」と改名したといひます。

青年期の和知は教員としての活動、特に、弱冠16歳で網田小学校の校長となつている点が特筆すべき点でしょう。

また、芦村塾にて太田和齋（1807～1901）に学んだこと、そこで出会った友人たちとの交流も、その後の和知の人生に大きな影響を与えました。同年代の石井菊次郎（1866～1945、のち外務大臣など）、鶴澤總明（1872～1955、弁護士など）といった人物と交流を持ち始めたのがこの時期のようです。彼らとの出会い、交流がのちに和知が政治家を志すきっかけだったのかもしれない。



▲関和知先生碑
（茂原市高師 1325-1、茂原公園内）

【問合せ】教育課 ☎（42）1416

令和6年9月号

一宮町の歴史特集

— 関和知没後100年 —

網田の歴史と関和知

【第6回 関和知の生涯②】

△略歴▽（1891～1907）
1892年 教員を辞めて上京。

東京専門学校（現早稲田大学の前身）へ入学。

1895年 東京専門学校を卒業。
『千葉民報』の記者となる。

1896年 『千葉民報』廃刊。『新総房』を立ち上げる。

1900年 東京英語専修学校へ入学。

1902年 渡米。ニュージャーシーのサウスオレンジで高校に通う。イェール大学入学。

1903年 プリンストン大学に移る。

1906年 プリンストン大学で「マスター・オブ・アーツ」の学位を取得。

1907年 帰国。

教員を辞めた和知は東京専門学校に入学しました。同校の創立者である大隈重信（1838～1922）は、の

ちに和知が衆議院議員選挙に立候補する際には、早稲田大学の卒業生というつながりもあり、推薦状（印刷）を出しています。

その後『千葉民報』の記者となった和知は、千葉県域を中心に活動します。この頃は千葉町（現千葉市）に居住していたようです。

『千葉民報』廃刊後、和知は進歩党の千葉支部機関誌として、明治29年（1896）12月、雑誌『新総房』（月刊）を創刊します。和知は「発行兼編集人」として政治に関する記事を執筆しています。和知の精力的な活動は、周囲から多くの支援を受けることとなり、翌年10月には『新総房』は「雑誌」から「新聞」へと拡大します。時に和知は27歳。メディアの舞台で頭角を現した和知は、その5年後、アメリカへ渡り勉学に励むこととなります。



▲河崎吉紀著『関和知の出世』（創元社、2024年）、まちの図書室で貸出中

【問合せ】教育課 ☎（42）1416